

年間第23主日

第一朗読 知恵9・13-18
第二朗読 フィレモン9b-10、12-17
福音朗読 ルカ14・25-33

2025.9.7 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日は「被造物を大切に作る世界祈願日」。これは世界中のカトリック教会と一緒に祈る日です。前のフランシスコ教皇様の呼びかけで制定されましたが、被造物というのは神様がお造りになったもの。神様がお造りになったものっていうのは、すべてなんだけど、こういう場合は特に自然環境とか地球、そういうことを大切にしていって、そういう意味を持っています。

なので、今日は、せっかくスカウトのみんなもミサに参加してくれているので、普段から自然の中で活動をされているスカウトの先輩たち——ベンチャー隊ですかね——の方の体験を少し分かち合っていたきたいなと思います。じゃあお願いします。

皆さん、ボーイスカウトの稲川です。よろしくお願いします。わたしは高円寺教会の信者で、幼児洗礼を受けているので顔を覚えていらっしゃる方もいらっしゃるかなと思います。わたしがボーイスカウトを始めたのは年長の時から始めまして、今まで約20年ぐらい続けております。で、ボーイスカウトは自然の中で活動することがやっぱり多くて、この間も夏キャンプに行ってきたんですけど、森の中、山の中で活動するっていうのは、普段とは違う、日常から離れた活動ができてとても楽しいことがあります。で、わたしがスカウト時代一番楽しかった活動について少しお話しさせていただきます。

わたしが一番楽しかったのは、中学校1年生の時にいった日本ジャンボリーというイベントです。ボーイスカウトのジャンボリーというイベントは、日本全国のスカウトが集まって、約2万人で同じ場所でキャンプをするというイベントでして、わたしの場合は富士の朝霧高原というところでキャンプをいたしました。で、その時はもうすごい雨が降ったりとか、悪天候だったんですけど、集まってみんなキャンプファ

イアをしたりとか、あとは有名人の野口聡一さんとか、その当時のサッカーの岡田監督とかがおいでになったりして、キャンプ——訓練キャンプというよりみんなで楽しく交流するみたいなキャンプだったんですが、すごく楽しかったです。

キリスト教では信者は兄弟という考え方ですが、ボーイスカウトにもボーイスカウトはみんな兄弟という考え方があります。だから日本全国から集まってきたスカウトたち、みんな兄弟、すぐに仲良くなってとても楽しい交流をすることができました。

そして、ちょっとスカウトに向けてですが、来年第19回日本ジャンボリーがあります。広島県です。参加希望を出してるスカウトは——日本全国のそして世界からも来ます——楽しんで交流してきてください。以上です。

続いて、ボーイスカウト杉並第5団ローバー隊の島崎と申します。本日このようなお時間いただけてありがとうございます。

教会の皆さんとボーイスカウトの後輩にお話しさせていただきたいというふうに思ってるんですけど、まず、ボーイスカウトの後輩になんですけど、ボーイスカウトやっても、別に頭もそんなに良くなるし、なんかすごい人になれるわけではないとぼくは思ってます。でもボーイスカウトやっててぼくが唯一「いいな」って思ってたのは、友だちがいっぱいできます。ボーイスカウトの人たちに向けての話はこれで終わりです。(笑)

で、教会の皆様には是非ぼくらの活動っていうのを知ってもらいたいなと思ってるんですけども、今、分かりやすく「友だち」という言い方をしたんですけども、先ほど稲川君からもあった通り、我々、日本全国、世界中に同じくスカウト活動してる人がおまして、で、スカウトはみんな仲間である、兄弟であるっていう考え方に基づいてます。また、ぼくらがよく歌う曲で「永遠のスカウト」という曲があるんですけども、「一回スカウトになったら死してもなおスカウトです」というふうに、そういう歌があって、そういう考え方が根付いてるんですけども、ぼくは高校時代オーストラリアに1年間留学してたことがありまして、また今、石川県に勤務しておまして——今たまたまちょっと東京に戻ってる場所なんですけれども——、当然オーストラリアにもスカウト活動というのがありまして、石川県にもスカウト活動というのがありまして、杉並5団の外でもすごく仲間がいる、実際に活動に参加す

るしないという話ではなくて、自分の今いる地域に仲間がいるっていうのはすごく心強いなというふうに思っております。また、ぼくは今日制服着てないんですけども、このネッカチーフだったりとか制服を着てたら「初めまして」の人でもすぐに仲良くなれて、同じような活動だったり同じような経験っていうのを共有しているからっていうのもあると思うんですけども、なんて言うんですかね、自分の人生の中でも友だち以上の繋がりと言いますか、すごく人に恵まことができる活動なのかなというふうに思っております。

ぼくもちっちゃい頃からボーイスカウトやってるんですけども、ぼくがボーイスカウトで初めてできた友だちは、当時大学生で、ぼくが自分の家に帰ってお父さんとお母さんに「今日友だちができたよ」って、「だあれ?」「大学生」って言ってすごい驚かれたって父親と母親が今でもその話をよくしてくれるんですけども、やっぱり仲間ができて友だちができるっていうのはこのスカウト活動のすごく良いところかなと思ってますので、引き続き温かく見守っていただけるとありがたいなというふうに思っております。以上です。

関戸といいます。いつも教会をなんか我が物顔のように使っていて申し訳ないなっていう気持ちもありますけど、自分は今もう社会人ですけど、大学生の時はいろんな都道府県の活動している大学生とか社会人と一緒に活動していたことで、自分たちの活動が日本全国とか世界に広がってるっていうことも感じることもできたっていうのもありますし、また、それですごく刺激を受けることができて、やっぱり学校の友だちとか部活の友だちとは違って、みんな仕事をしてるんですけど、テレビみたいなことやってる人もいるし営業とかっていろんな仕事やってる人と色々かかわって中で自分もすごい刺激を受けて色々知見も広がってきますし、役割分担とか社会で必要なこともすごい勉強できたので、ボーイスカウトに入ると、ま、きついこともあると思うんですけど、その分社会に出たときにすごい頼られたりとかするようになったかなと思ってます。かぶるかもしれないですけど、温かく見守っていただけると嬉しいです。

三人の方、体験を分かち合ってくださいありがとうございます。[拍手]

今、スカウト活動の一番の特徴は、すぐに仲間になるんだ、兄弟になるんだ、と三人の方ともおっしゃってくださいましたね。それは、わたしたちのキリスト教の信仰も同じですね。信仰を通してすべての人と兄弟姉妹になっていく。でもそれは言葉だけで、実際になかなか実感が伴わないのは、神様の恵みで少しずつ深めていただきたいと願うわけですし、そして今日の被造物を大切に作る世界祈願日においては、人間同士だけではなくてすべての造られた、特に生き物や自然とも繋がって兄弟姉妹なんだと、そういう思いを新たにして、大切に生かし合うにはどうしたらいいかを見ていきましょう、そういう趣旨だと思いますね。

今日、わたしたちは本当に年齢も違うしバラバラ、だけど教会という、そしてスカウトを通して若者の体験を聞く機会っていうのも、教会やスカウト活動を通して繋がりができているからなんですね。これを大切に育みながら、それが広がっていくことができますように、お互いの活動を通してそれぞれが良いものへ成長していくことができますように、互いのためにこのごミサを通して祈り合いたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>